

龍谷

Ryukoku

2018 No.85



- 01** | P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
言葉の力が
人生を育む
三浦しをん さん × **入澤 崇** 学長
- 02** | P06
Ryukoku 5長 News
龍谷大学志願者数が6年連続増加
- 03** | P07
Ryukoku Event
- 04** | P08
People, Unlimited
セレッソ大阪堺レディース所属
逆境を好機に転じてネクストステージへ
前川 美紀 さん 経済学部
- | P10
People, Unlimited
ポートランドで
個性を尊重するまちづくりを体感
山之内 寛人 さん 政策学部
- | P12
People, Unlimited
ユニークなレシビ開発で
「近江つけもの」を救う
加藤 千紗子 さん・**梅井 真由美** さん 農学部
- 05** | P14
Education, Unlimited
地域を活性化する学生視点の情報誌
『京都えきにし』4万部創刊
野呂 靖 准教授 文学部
- | P18
Education, Unlimited
最終目的は人間の幸せ
食と農を極める院の誕生
伏木 亨 教授 農学部
- 06** | P22
Special Article 特別企画
「環境 DNA 分析」の
日本を代表する研究者
山中 裕樹 講師 理工学部
- 07** | P26
World, Unlimited
グローバルクライシスゲームで
育む交渉力
陳 慶昌 准教授 国際学部
- 08** | P30
Event Ryukoku Museum
仏教の開祖ってどんな人？
人間・シッタールタに迫る展覧会
岩井 俊平 龍谷ミュージアム准教授・学芸員
- | P32
第 15 回青春俳句大賞
- 09** | P34
People, Unlimited 龍谷人
プロ野球選手から第二の人生へ
成功を導く生き方とは
吉川 勝成 さん 飲食店経営者
- | P36
People, Unlimited 龍谷人
これまでの経験を活かし
国の福祉制度政策に携わる
伊藤 優子 さん 厚生労働省 社会援護局 社会
基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
- | P38
People, Unlimited 龍谷人
なりわいは大道芸
人の心をつかむ瞬間を重ねて
森本 一貴 さん 大道芸人 LEO
- 10** | P40
News & Topics
最新情報
- 11** | P46
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

言葉の力が 人生を育む

作家

三浦 しをん

×

龍谷大学学長

入澤 崇



Feature Article

People Unlimited

Education Unlimited

World Unlimited

People Unlimited 誰か人

News & Topics



三浦しをん みうら しをん 東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。2000年に長編小説「格闘する者に〇」でデビュー。2006年「まほろ駅前多田便利軒」で直木賞、2012年「舟を編む」で本屋大賞、2015年「あの家に暮らす四人の女」で織田作之助賞を受賞。

インターネットや人工知能が進化し、大きく変化しつつある社会構造。そのなかに飛び込んでゆく現代の学生達に必要な力とは。直木賞作家の三浦しをん氏と入澤学長が語り合った。

心に情熱を灯すのは、 出会いと言葉

入澤 先日omezの時間に、学生達に「舟を編む」を薦めたんです。あれは若い人に読んでもらいたいと本当に思います。全国大学生協の調査で、学生の二人に一人は全く本を読んでいないという結果が出た。ネットの普及とスマホの影響で、ここ数年で若い人達の言葉に対する感覚がものすごく変わってきたのを感じます。便利な一方、非常に安易な方向にも流れている。言葉や知識、情報に対する慎重さ、真摯さの欠如といいますか。どれだけ書き方を指導しても、卒業論文さえネットからの引用で済ませてしまう学生もいます。時間をかけて本を読むこと、足をつかってどこかに向き本物を体感するような実体験さえも、面倒だとして避けている。

三浦 小説の新人賞の選考委員を10年以上やらせていただいて感じるの、投稿数は増えているし、日常的なメールやラインによって、昔よりは文章を綴り慣れている人が多い。でも、なんで実地にあたりたりして調べていないんだろうとを感じる作品が多くて。だからリアリティに欠けるんです。また、小説や漫画が好きだったら、なんとなくストーリーのパターンが身に染み付き、そこからその通りにいっか、あえて外すかになると思うんですが、全然それがない。かと言って、すごく斬新で面白いストーリーかというところ

もない。文章力やひらめきみたいなものは感じられるのに、この人全然小説が好きでなく、小説を読み込まずに書いてるなという応募作が増えている気がします。物語を構想するときは、なんらかの情熱を持って先行作を読んできてはじめて、自分なりの表現となる。研究も、当然先行する研究があって、それをちゃんと知った上で、自分はどうアプローチするかですよ。情熱が醸成される機会が少ないのでしょうか。

入澤 教員の言葉も通じにくくなってきました。10年前の教え方のままだとはいなくなっている。講義内容にも工夫が必要です。若者の感覚をつかみやすい、30代40代の若い教員の質によって大学選びをしたほうがいいという声もあります。でも一方で、何が火をつけるきっかけになるかはわからないですよ。私は学生の頃、おじいさん先生のふとした言葉で、それまで無関心だった古典文学の世界に興味を持った経験があります。学問にしろ就職にしろ、最近ちょっとやってみただけで自分には無理だと判断してしまう人が増えたようにも思います。もう少し続けてみて違った観点から見るチャンスに出会えたら、面白くなったりするものだと思うんですが。

三浦 大学生生活ってほんのちょっとしたきっかけで面白くなっていくんですよ。先生達は人前で喋る以上、芸能的な面もかなりある。人柄が喋り口調や言葉選びに滲んでいますよね。それぞれが培ってきた人間性も含めた研究成果や言葉選びが、何年かに一度、一人の学生の心を強く打つかもしい。それがきっかけで研究の道に魅入られる人もいます。そういう出会いがずっと繰り返されてきたんでしょうね。



入澤 崇 いらさわ たかし 龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

人生の視野を広げるのは 経験を咀嚼する言葉の力

入澤 作家を志されたきっかけは？

三浦 私はなんとなく流れて…。就職活動の時期になり、本や漫画が好きだったので、どこか会社に入るのなら編集者かなと出版社を受けたんですがどこも受からなくて。でもそのとき、ある編集者の方が、入社試験の作文が面白かったから小説書いてみたらどうですかって声をかけてくださったんです。だけど編集者になりたいし…と卒業後は修行のつもりで古本屋さんでフリーター。夜は時間があつたので、少しずつ書くようになって、それがデビュー作になりました。だから志すというより、流されてなってしまった。その後、本当にこういう書き方でいいのかなと遅まきながら考えるようになって、それをするうちに書くのが楽しくなった。追究し甲斐があることを知って、それで続いているという感じです。

入澤 今は、大学入学直後からキャリアを意識させられ、適性試験も受けさせられる。でも何に向いているかなんて、テストで決まるわけではない。いろんな人と出会って、そのときに化学反応が起きる、そこだと思っただすよね。人工知能がどんどん進化し、社会構造自体が大きく変化すれば、就職もこれまでと同じ感覚でいるわけにもいかない。だから余計に、学生時代は、自分のなかで人生の構想を柔軟に練るような時間にしてほしいと思っただす。

三浦 そのためには、思考能力と想像力、そして言語能力が必要だと思います。そこ

からしか好奇心って生まれません。それに、適応能力も。大半の人は、いろんな経験を自分で言語化して咀嚼することによって「あれ？これもありだな」と思うんじゃないかなって。

また、必要以上に真面目に考えすぎなくてもいいと思っただすよね。本当はテキトーでも生きていけるんです。なのに今、行く道から外れた人に対する、社会の大多数からの視線がすごく厳しい。ちょっと人と違うことをすると、あいつどうなのって言われてシュンとなる。だからこれまでの体制通りに行きたいと思う人達の思惑に乗っちゃうことになる。それが改革を妨げ、社会を摩耗させて衰退させる原因だと思っただすよ。

入澤 お釈迦様の教えて「弹琴のたとえ」というのがあるんですよ。一番いい音色が出るには糸はどういう状態かというので「ぴんと張ってても、いい音は出ない。緩んでいても出ない。ほどよい状態がいい」というんです。

三浦 ほどよい状態を探すのって、決めつけすぎず、流されすぎず、本当に難しいですよね。でもどこが適当なのかは、思考力によって探っていくしかない。自分だったり世の中だったり、どうあるのが一番いい塩梅なのかなって。

入澤 そのとき、自分のなかで言葉で思考する、これがベースになるんです。仏教の精神をヒントに、いつの時代もそれを育める大学でありたいと強く思います。自分の潜在能力を掘り起こすような人や本、学問との出会いの機会をたっぷり。それらから、社会変化に揺らがない、就職や仕事という枠に限らない力強い人生を組み立ててほしいですね。

龍谷大学志願者数が6年連続増加、2018年も好調に推移

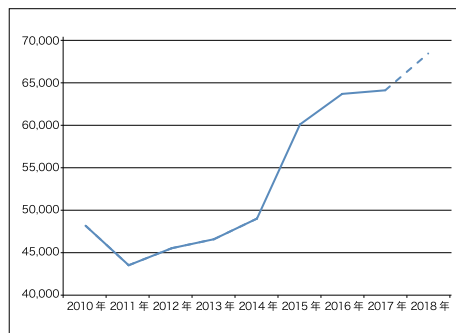
龍谷大学では、全学の行動計画である「第5次長期計画(2010～19年度)」に基づき、本学の持続可能性を高めつつ、社会からの負託に応えていくための事業を展開しています。

入試状況に関しては、2012年から2017年まで6年連続で志願者数は増加。特に2015年度の国際学部・農学部開設を契機に大きく伸びています。

今年度の各入試についても、2018年2月現在、A・B日程が前年比104.0%、センター利用前・中期入試が前年比114.5%、公募推薦入試が114.5%と、好調に志願者が増加しております。C日程およびセンター利用後期入試についても、好調に推移しており7年連続志願者増となる見込みです。

2018年度以降も、より学生が魅力を感じる大学へと進化し、志願者が増えるよう、さらなる充実を図りたいと考えています。

<志願者合計 推移(2010～2018年)>



<志願者数詳細(2010～2018年)>

日程	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
一般入試 A日程	18,460	16,472	15,959	16,868	18,402	21,362	21,587	23,312	25,451
一般入試 B日程	8,995	7,439	8,874	8,741	8,649	11,590	13,545	13,777	13,107
一般入試 C日程	2,629	2,264	2,436	2,839	2,772	4,623	3,964	3,850	未確定
一般入試 合計	30,084	26,175	27,269	28,448	29,823	37,575	39,096	40,939	38,558
センター利用 前期	5,915	5,376	5,753	5,698	5,719	5,805	5,686	5,549	6,721
センター利用 中期	1,597	1,773	2,187	1,738	1,934	1,819	2,780	2,292	2,259
センター利用 後期	360	318	400	350	373	496	490	486	未確定
センター利用 合計	7,872	7,467	8,340	7,786	8,026	8,120	8,956	8,327	8,980
公募推薦	10,207	10,049	10,056	10,445	11,093	13,743	14,795	13,988	15,549
合計	48,163	43,691	45,665	46,679	48,942	59,438	62,847	63,254	63,087

2018年2月15日現在

03 | Ryukoku Event

国際シンポジウム

『揺さぶられる司法科学—揺さぶられっ子症候群(SBS)仮説の信頼性を問う—』を開催

2018年2月10日、龍谷大学犯罪学研究センターは、『揺さぶられる司法科学—揺さぶられっ子症候群(SBS)仮説の信頼性を問う—』と題して、国内外より専門家を招いて国際シンポジウムを開催しました。

子どもを激しく揺さぶることで脳に損傷が生じるとされる「揺さぶられっ子症候群(Shaken Baby Syndrome.以下、SBS)」と「虐待による頭部外傷(Abusive Head Trauma, AHT)」について、国際的・多分野的な観点から検証することを目的とした本シンポジウムには、約200名が参加しました。

笹倉香奈教授(甲南大学・犯罪学研究センター嘱託研究員)は、「日本の医師や弁護士も海外の現状を知る必要がある」と述べ、当初仮説として提唱されたSBS理論は、虐待事例で有罪の根拠となってきたものの、今

ではその科学的信頼性が批判されるに至っているという海外の議論状況を紹介しました。

また、基調講演では、キース・フィンドレイ准教授(米ウイスコンシン大学ロースクール)が、2000年代以降に米国で相次ぐえん罪事例を紹介するとともに、「子どもは虐待されるべきではないが、同時に無実の人が刑務所に送られるべきでもない」と話し、多くのメディアに注目されるシンポジウムとなりました。



アクティブラーニング型講義を体験 出張サイエンスカフェを実施

2017年12月1日、龍谷大学付属平安高校にて、農学部サイエンスカフェ「トウガラシを食べるいきものたち～辛くてうまい!だけじゃない～」を実施しました。農学部では、簡単な実験や体験をとおして、高校生の研究や学びへの意欲を醸成する取り組みをおこなっています。植物生命科学科の古本強教授によるトウガラシの辛み成分に込められた生存戦略の話や、資源生物科学科の岩堀英晶教授は、トウガラシの線虫害について、顕微鏡で観察したり、岩堀教授がコレクションしてい

る世界中のトウガラシを見て触れて、体験する講義内容を実施しました。今後も、高大連携協定校を中心に開催していきます。



04 | People, Unlimited

セレッソ大阪堺レディース所属
逆境を好機に転じて
ネクストステージへ

前川 美紀 さん

経済学部1年生
滋賀県立高島高校出身

中学1年で、セレッソ大阪の育成組織であるアカデミーのセレクション(選考)に合格し、所属。以来、滋賀から大阪まで、学校が終わってから往復4時間半をかけて週6日の練習に通い続けている。前川美紀さん、19歳。「とにかくサッカーが好き。ボールをさわっているだけで楽しい」というはにかみ顔は、そんな情熱が意外なほどやさしく温和だ。何がそこまでさせるのか。「クラブチームのプレーはやっぱりレベルが高いし、プロや日本を代表する選手に接する機会もある。練習段階から厳しい環境でやる方が自分のためかなと思って」。実際、セレッソ大阪のJリーグ選手が

サプライズで練習に来ることもあれば、練習試合でINAC神戸と対戦したこともある。澤穂希選手をはじめとするチームのプレーに「スピードもパワーも全然ちがう」と圧倒され、大きな刺激を受けた。

クラブチームは年齢の幅が広く、同年代だけでないのも魅力だ。最年少は中学1年生から、上は大学生までが一緒にボールを追う多世代構成。年齢をこえて仲がよく、皆でいると笑い声がたえない。だが、ひとたび練習となると人が変わったように激しく競り合う。それが楽しい。「自分で点を決めるより、ゴールに直結するサポートプレーをできるのが嬉しい」。



チームで練習中の前川美紀さん

サッカー愛がメンバーの絆になっている。

中学時代はU16世代別の候補にも選ばれたが、高校時代は3年間を通して怪我に苦しんだ。とくに高3ではシーズン序盤の5月に前十字靭帯と半月板を損傷して全く出場できず、苦しい一年を過ごした。ショックは大きかったが、「怪我で強くなることもできるはず」と気持ちをプラスに切り替え、プロのプレー研究や体力維持のためトレーニングを続け、精神力と基礎力を鍛えることに注力した。つらい月日を支えてくれたのは仲間のエールだった。感謝と憧れを折れない強さにかえて、次のフィールドをめざす。

「今年はとにかく試合に出続けるのが目標。1年を通してピッチに立って、見ている人も楽しめるサッカーをして。そしてチームに貢献する活躍をしたいです」。なでしこリーグ1部昇格が決まった今季、チームも前川さんも、ともに飛躍のシーズンになることを期待したい。



前川美紀さん(南津守さくら公園スポーツ広場練習場にて)

04 | People, Unlimited

ポートランドで
個性を尊重する
まちづくりを体感

山之内 寛人 さん

政策学部4年生
岐阜県立飛騨高山高校 出身



2年生から「Ryu-SEI GAP」で地域の課題解決に関わった山之内さん。まちづくりに関心を持ち、深めていくうちに、学びをこれで終わらせたくない、世界を見てみたいという気持ちに。「それなら、ローカルプロダクトに強いアメリカのポートランドがいいよ」との所属ゼミの深尾昌峰准教授のアドバイスで、山之内さんは4年生に進級のタイミングで自ら1年間休学して、私費留学することを決めた。

4月に発って7カ月半。活動時間を確保するため、午前中で授業が終わる語学学校を選び、午後は研究にあてた。まずはタウン情報に詳しいwebマガジン社を訪ね、押さえて

おくべきところを相談。その後少しずつ街を歩き、ローカルフードやローカルプロダクトの発信源に顔を出しては15カ所ほどにインタビュー。4カ月たった頃には、事故の多い路上に市民ボランティアがペイントして街を彩るイベント「シティーリペアプロジェクト」など様々な市民活動にも参加。印象的だったのはLGBTのパレードで、先頭を行くのが、日本だったら権力の象徴であるはずの警察や、性をタブーとされがちな子ども達だったこと。

ポートランドは仕事を人生の全てとはしないリベラルな雰囲気があり、市民で街を常に変えていくエネルギーがあった。低価格の大



ポートランドの経験をプレゼンする山之内さん

量生産商品よりも、多少お金をかけても信頼できる人が作ったローカルプロダクトが好まれていた。

「一見やっかいな課題とも思える風変わりなもの、既に持っているユニークなもののみで、面白がって、より引き立てる。その精神が結果的に、魅力的なプロダクトや街並みを生み出しているし、消費者の選択基準にもなる。そんなまちづくりをやってみたいですね。就活は有名企業に選ばれるために動くのではなく、地域に根付いたユニークな会社を自分で選びたい。ノンストレス、アイデアフルであるために、仕事以外の時間も重視して。Keep

Yanchi Weird (Yanchi=山之内さんの愛称、ポートランドのスローガンをヒントに、自分らしさを尊重する意)でいることの大切さを学びました」

※Ryu-SEI GAP (龍谷大学 政策学部 Glocal Action Program)は、学生が主体となって、教職員と一緒に地域社会の課題解決に取り組む、実践型プログラム。



留学先でのホストファミリーと山之内さん

04 | People, Unlimited

ユニークなレシピ開発で 「近江つけもの」を救う

加藤 千紗子 さん

農学部 食品栄養学科 2年生
滋賀県立膳所高校 出身

梅井 真由美 さん

農学部 食品栄養学科 2年生
京都女子高校 出身

ながいものバナナみそ漬け、ぱくっとかん
びょうロール、紅白カスリーム漬け…?,これら
は全て滋賀県産の伝統野菜「近江野菜」を
使った「近江つけもの」。そのユニークなネー
ミングのレシピを考案したのが、農学部食品
栄養学科の学生有志達だ。

近江野菜は生産量、消費量ともに少なく、
そのうえ県外の漬物として加工販売されて
出ていく。滋賀県の漬物業界を低迷から救う
ため、また近江伝統野菜の生産を守るため
に始まったのが「近江つけものブランド化プロ
ジェクト」。これは、滋賀県漬物協同組合と滋
賀県中小企業団体中央会、そして農学部食

品栄養学科の産学連携の取り組みだ。

2016年の初年度は、農学部1期生の2年生
と入学したての1年生から有志を募り、「近江
つけもの」をアピールする若者感覚のレシピ開
発に着手。漬物の基礎知識がない学生達。
最初は何も知らないまま野菜をひとまず調味
液に漬けたものを試食会に持ち込んだ。そこ
から業界の方々からアドバイスをもらい、漬物
は最初に塩漬けて調味液に漬けることや、
野菜の旬などを学んでいった。試作と試食会
を繰り返し、集大成として「漬物グランプリ2017」
に11グループが出品。そのなかから3点が東
京ビッグサイトでの決勝大会にまで残り「一般



審査特別賞」を受賞する作品まで現れた。

この取り組みをここで終わらせまいと立ち上がったのが「ぱくっとかんぴょうロール」で決勝大会に進んだ加藤千紗子さんと梅井真由美さん。2年生になった彼女達は「近江つけもの研究所」を立ち上げて活動を継続。彼女達をリーダーに1年生が集まり、また新たなオリジナル漬物を考案中だ。

「野菜や調味料のことを学ぶ以外に、プロジェクトの主体的な動きや、企業の方との連携など、食品栄養学科の枠を越えた貴重な体験をさせていただいています」(加藤さん)

「漬物にすると手軽に野菜が採れるので、

若い人にもっと身近になったらいいなと。また、この活動を通して滋賀を好きになり、滋賀で働きたいと思うようになりました」(梅井さん)

めざすは学生の方で「近江つけもの」のブランド力を上げること。歩み始めたばかりの「近江つけもの研究所」のこれからに注目だ。



梅井 真由美さん 加藤 千紗子さん

05 | Education, Unlimited

地域を活性化する 学生視点の情報誌 『京都えきにし』4万部創刊

文学部 仏教学科

野呂 靖 准教授

教室で得た学びをフィールドワークで実践

いま京都で密かに人気のスポットは、京都駅の西側一帯、通称「えきにしエリア」。古くは平安京の朱雀大路を中心に東西の市や重要な都市機能が集積していたところである。現在も東・西本願寺をはじめ鉄道博物館や水族館、中央市場や地元に密着した商店街など多彩な地域資源が集積している。そして本学大宮キャンパスもこのエリアに含まれている。平成31年春、JR嵯峨野線新駅の開業予定もあり、京都市における新たな地域活性化の拠点として注目を集めている。

そして今春、このエリアを紹介する情報誌『京都えきにし』を創刊したのが、文学部の3年生達だ。これは「文学部共通セミナー（アドバンストコース）」が京都市の京都駅西部エリアまちづくり協議会や地域産業界と連携しておこなったもの。「学生視点で地域の魅力

を掘り起こしてほしい」という京都市からの呼びかけによりスタートした。市と大学が連携して情報誌を作成するのは、全国でも珍しい試みである。

今回の授業を担当した野呂靖准教授は、「文学部の専門的な学びは、図書館で資料を読み込み、知識を得ることが主体で、これは学問の基礎体力を養うには不可欠なものです。しかし、修得した知識を社会や他者との関わりのなかで実践する機会が少ないという課題がありました。今回のプロジェクトでは、学生達が教室の外に出て、歴史や文化、そこに住まう人々の魅力を、これまで大学で学んだことを通しながら新たな視点で見出ししていきます。自らの学びと社会の接点を肌で感じることで、学びの意義や価値に気づく貴重な機会となったはずです」



龍大OBであり、壬生寺の貫主を勤められている松浦俊海さんから貴重なお話をうかがう。



コツコツマジメな文学部生が街で大奮闘

4名1グループの20名の学生が集まり、昨年9月から授業がスタート。学生達は「えきにしエリア」内の施設には人が集まるものの、回遊しないという課題に着目。そこで「読んで歩きたくなる情報誌」をコンセプトに、歴史・なりわい・体験・学ぶ・食べる、という五つの企画を立て、寺社・企業・商店などへ取材した。事前に授業で、撮影やインタビューの仕方や名刺交換など、ビジネスマナーをプロの方々から学んだが、一度では思うように話を聞き出せず、何度も取材先に通ったチームも。しかし、そこはコツコツマジメと評判の文学部

生達、緊張しながらも一生懸命な姿に、取材先の方々も温かく応えてくれたことで、一歩踏み込んだ取材ができたという。「こんな緊張感のある授業は初めて」と驚く学生もいたが、それだけ充実した時間であったということ。校了が近づくにつれ、活発に意見を交わし、目が輝いていく学生達の姿があった。

「はじめはインスタ映えとかばかり考えていた学生達ですが、取材を通じて知った店の方の思いや生き方に心を動かされ、その感動を読者に伝えたいという気持ちが芽生えたようです。また、新選組をテーマに訪れた壬生寺の貫主が龍大OBでいらっしゃることもあり、特別に非公開の文書を見せてもらうなど、



京都リサーチパークを取材する学生達。先端的な取り組みに興味津々。



野呂靖・のるせい

1979年大阪府生まれ。博士(文学)。専門は仏教学。浄土真宗本願寺派総合研究所研究員、花園大学非常勤講師などを経て現職。日本中世における華嚴思想文献の解読・研究とともに、現代における仏教の役割についても関心を持ち研究を進めている。2010年、有志とともにNPO法人京都自死・自殺相談センターを立ち上げ、現在理事をつとめる。

地域と龍谷大学とのつながりを改めて知ることも多くありました。山あり谷ありでしたが、龍谷大学文学部生だからこそこの視点で、ほかにはない新鮮な情報誌が完成したと思います」

3年生は今後の進路を考えはじめる重要な時期でもある。今回培った、自分で疑問を持って調べ、意見・主張を言葉にして適切に他者へと伝えるという経験は、就職活動や卒論を書くうえでも役立つ、有意義な力となるはずだ。

『京都えきにし』は、えきにしエリアの商店のほか、京都駅の観光案内所、大垣書店全店にも設置される。ぜひ手に取って、えきにしエリアを散策してほしい。

05 | Education, Unlimited

最終目的は人間の幸せ 食と農を極める院の誕生

農学研究科 食農科学専攻
2018年4月開設

伏木 亨 教授

分野をまたいだ1専攻が幸せの架け橋

2018年4月、大学院農学研究科が開設される。専攻はあえての1専攻。そして農学部1期生(新4年生)の進学より一年早くのスタート。そこにどんな意図があるのか、農学研究科長に就任予定の伏木教授に話を聞いた。

「食と農の最終目的は人間の幸せだと思うんですね。そのために食の営み、健康があり、それを実現するために農業がある。それぞれは密接につながっています。日本は伝統的に農をベースにして食を供給してきましたが、次第に農産物や食や人が国境を越えだして、近年ものすごく急激な変化が起っています。今この時代に食と農を掲げたのは、ここで一番考え、柔軟な行動をしていかないと、日本人の幸福というのは達成できないからです」

食と農は非常に幅広い領域にわたる。農

学部では植物生命科学科、資源生物科学科、食品栄養学科、食料農業システム学科の四つの学科で編成されているが、農学研究科ではそれらを再編・拡充した食農科学専攻一つ。これにより、専門分野にとどまらず、分野をまたいだ研究が可能だ。社会には専門分野だけでは解決できない複雑な問題が増えている。

「学問には様々な段階がありますが、食農科学専攻は、なんとか人の役に立つということまで手をのばしていきたい。食だったらそれを食べる人をありありと想定しながら。農にしても農という概念ではなく、農業生産物など具体的なものを念頭に置いた実学的な研究に。もちろんそのためには基礎的な研究は必須だけれど、そこにとどまらないというのが大事だと思っています」



Feature Article

People Unlimited

Education Unlimited

World Unlimited

People Unlimited 龍谷人

News & Topics

2018年2月 龍谷大学・NPO法人日本料理アカデミーシンポジウム「日本料理の日本テロワール」



社会人、学生、多分野の人材が 協働できる場に

1年目は社会人を中心としたメンバーでのスタート。2年目に農学部卒業生が合流することになる。一般的に大学と社会は隔たりがちだが、この院では社会との垣根が低くなる。学生達には、社会に必要とされている研究がわかるなどの良い影響があるだろう。修士課程の必修科目である「食農科学特論」で院生達は一堂に会する。その場が交流のきっかけとなり、分野や立場を超えたアイデアや共同研究も生まれる可能性がある。

気になる一期生の顔ぶれだが、博士課程

の合格者のうち3名はなんと京都有数の料亭のご主人。修士課程にも料理人が2名、ほか香料会社、園芸会社、運動と栄養の研究者、フードコンサルタントなどバラエティに富んだメンバー。

「料理人がこの院に色濃く集まってきたというのは他の大学にはないことで、非常にユニークな点。京都の料理人が今までのように勘と経験だけではなく、もっと科学的な視点や開拓の仕方を学びたいと言っておられる。他の分野の実験科学者も、一つの出口として料理人と協働すると、すごく研究が進む。非常に相性が良いんです」

近年の日本の課題は農の出口をどうする



京都を代表する料理人の方々とシンポジウムで発表する料理の打ち合わせ。



伏木亨・ふしきとおる

1953年京都府生まれ。1975年京都大学農学部食品工学科卒業。80年同大学院農学研究科食品工学専攻博士課程指導認定退学。博士（農学）。京都大学大学院農学研究科教授を経て、2009年より本学農学部食品栄養学科教授。食品工学から食べ物の「おいしさ」のメカニズムの解析へ。食のなかで一番わけがわからない難しいものが「おいしさ」だった。「おいしさ」は食品のなかにはなく、人と食品の関係のなかに存在している。近年の著書に『だしの神祕』（朝日新書2017）など。食を極めることで人間の幸せに貢献したい。

かということ。生活できる農業、都市型の農業、海外向けの農産物など、農の新しい形が模索され、農の成果としていかに付加価値の高いものを作るかということを考えなければならぬ時代に来ている。その一つの答えが食にあるのは違いない。日本の料理人が大学院で学ぶという風潮が、地域の農業や、海外に対する農業のあり方、あらゆることに発展していく基礎になることが期待される。

「食と農は次の世代には最先端の科学になる。これまで曖昧であったものを研究するというのが、今一番面白い研究じゃないのかなと思います。そういうチャレンジの精神のある人にぜひトライしてほしいですね」

06 | Special Article

特別企画

「環境DNA分析」の 日本を代表する研究者

理工学部

環境ソリューション工学科

山中 裕樹 講師

山中 裕樹 やまなか ひろき 1979年滋賀県生まれ。博士(理学)。京都大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程修了。人間文化研究機構 総合地球環境学研究所プロジェクト研究員を経て龍谷大学へ。2013年より現職。琵琶湖に近い高月町(現長浜市)で生まれ育ち、小さい頃からの魚好きが高じて研究者に。DNA解析の技術に触れ、「見えないもの」を情報として取り出す面白さに魅了されて現在に至る。

ビジネスプランコンテストでW受賞

海や川で汲み上げた水から、そこにどんな生物がいるかを調べる技術「環境DNA分析」の研究が進み、生態調査への利用が広がっている。環境DNAとは、土や水に含まれるDNAの総称だ。採取した水には、そこに生息する生き物の排泄物や体液や剥がれたうろこなどが含まれる。水を濾過してDNAを解析することでどんな種がどのくらいそこにいるか、またはいないかが推定できる。いわば自然界の「遺留品捜査」である。

現在、生き物の生態調査は主に観察や捕獲といった直接的手法でおこなわれるが、それに比べて、時間も手間もコストも大きく減らすことができる。多地点調査や、広域での網羅的調査が可能になるほか、例えば深海や海洋保護区や汚染地区といった調査困難エリアの調査にも道が開ける。これまでできなかった生態調査ができるようになるのだ。また、費用対効果が見合えば漁業・商業利用もしやすくなる。

本学理工学部環境ソリューション工学科の山中裕樹講師は、この環境DNA分析の第一人者だ。大学院を出てまもない20代後半、仲間の研究者とチームを組んで、従来のDNA解析を応用する新たな技術の開発に着手した。世界で最初の研究だと思っていたらタッチの差でフランスチームに先んじられたが、彼らが発表した手法はアメリカウシガエルのみを検出するもの。日本チームは複数生物を検出しており、「技術は我々の方が上」と確信をもって研究を進め、2011年に最初の論文を4名の共著で発表。その後、仲間を増やし、現在、環境DNA分析は新たなフェーズを迎えつつある。

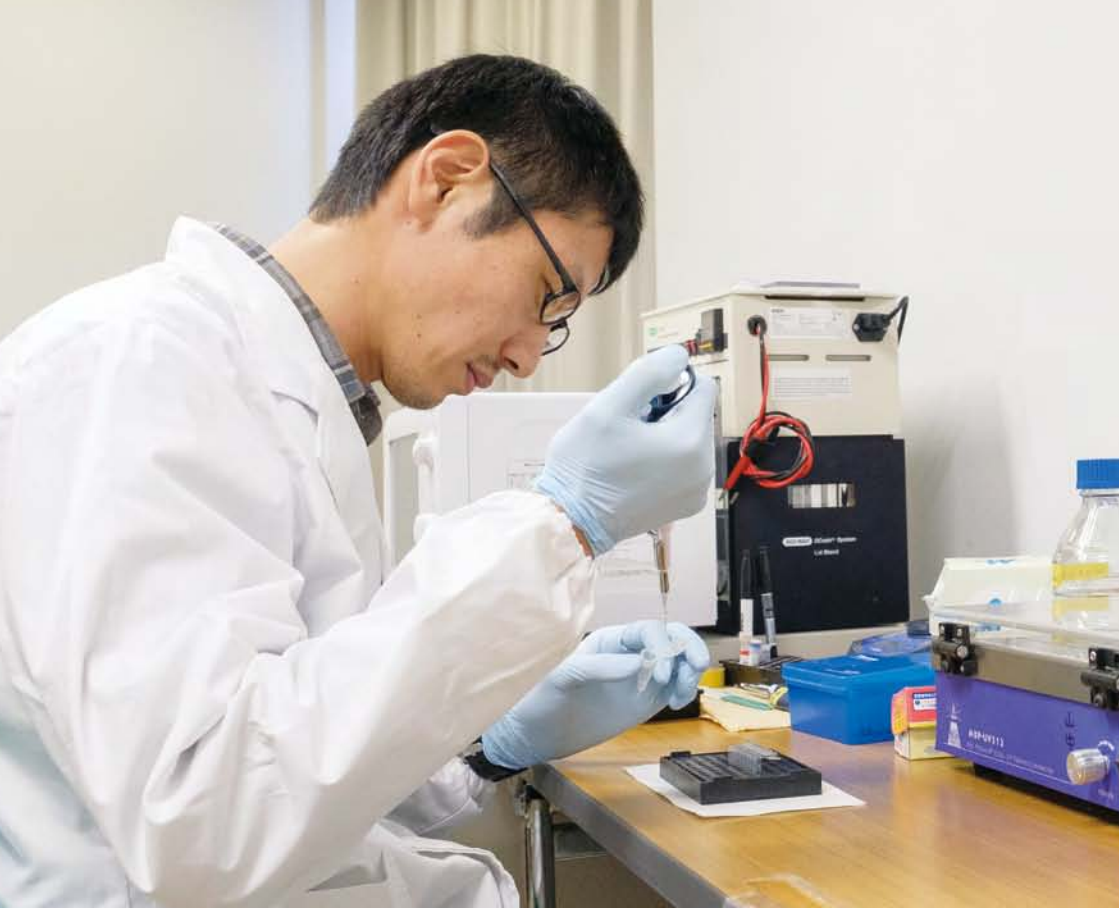
環境省の環境研究総合推進費の助成対

象となり、科学技術振興機構(JST)の戦略的研究推進事業CRESTにも選定されるなど、各省庁や企業が環境DNA分析に注目しはじめたのだ。山中講師自身も2017年9月に開催されたビジネスプランコンテスト「第1回マリテックグランプリ」で「環境DNA分析が切り開く生物モニタリングの未来」と題してプレゼンテーションをおこない、最優秀賞と企業賞(日本財団賞、ヤンマー賞)を受賞した。それに先立って同年7月の「第2回滋賀テックグランプリ」でも最優秀賞と企業賞を受賞している。

「環境DNA学会」設立へ

山中講師の原動力は小さい頃から変わらない。「面白い」という知的興奮と好奇心だ。タモで魚をすくっていた若い魚類研究者が、あるときDNA研究者と出会って、この道に進んだ。「今まで水中に潜らないと見えなかったものが、水を汲むだけで目に見えるデータとして取り出せる。これはすごい」。夢中になっているうち、気づいたらパイオニアとなり第一人者にもなっていた。

「水には生き物の情報がぎっしり入っているはず。種内の遺伝的多様性、個体年齢、健康状態など潜在的に含まれている情報をもっと取り出せたら」。このビッグデータ時代に、環境DNA分析の技術が大きく普及し、そこに現在のコンピュータ技術が融合すれば、「どんな生き物がどこにいるかが自動的にわかる世界」も夢ではない。上空の気圧配置や雨雲の状況などの気象情報をリアルタイムに見ることができるように、サンマの群れの位置や自社工場の海洋インパクトが数字で把握できる。そんな生物情報の高度情報化社会の姿が見えてくる。生物多様性の危機対策



が急務となるなか、環境保全計画に有益なのはいうまでもない。

登場から10年、いま、環境DNA分析は急展開の時期にある。「大学の研究者が手がけているだけでは普及は進まない。環境アセスメントの現場で実際に業務に組み込まれて活用が進んでほしい。そうやって初めて大きく普及する」。山中講師は、日本国内チームで統一理論の発表をめざすほか、環境DNA学会の設立を準備中だ。

未知への好奇心と仮説力が道を拓く

「今後はこの分野で活躍してくれる研究

者の育成も重要になります。研究分野としてまだまだフロンティアで、アイデア次第で思ってもみなかった成果が得られることも多く、若くして頭角を現せる魅力的なフィールドです。学部の卒論が学術誌で話題になることも充分ありうる。一緒に新領域を切り拓いていく未来の研究者を待望しています」と、好奇心旺盛な学生の参画に期待を寄せる。

生物多様性がうたわれて久しいが、実質のデータを取る方法がない状態が長らく続いていた。そこに出てきた待望の技術だったわけだが、「ただ、最初は荒唐無稽と見られ、相手にされていなかったのです」と、山中講師。DNA解析自体はオーソライズされた手



次世代シーケンサーが設置された研究室で実験をおこなう山中講師

法だが、水を濾過したくらいでは解析に足る量のDNAを取り出すことは困難と考えられていたのだ。「でも、僕らは最初からできると思っていました」。風向きが変わったのは、4～5年が経ってからだ。仮説が実証され、実効性があるとわかりはじめると、生物保全を担う環境省や、建設アセスメントにかかわる国交省、海洋資源が重要な意味を持つ水産庁（農水省）なども注目しはじめ、現在の追い風に至っている。

環境DNA解析には、次世代シーケンサーという遺伝子の塩基配列を高速に読み出す解析装置が不可欠である。龍谷大学理工学部は、関西でも数少ない次世代シーケン

サー設置大学で、「ぜいたくな研究環境」と山中講師。研究者どうしの交流や共同研究も活発で、「ここにすれば分析できるというハブにしていければ」と、さらなる環境充実に向けて、研究資金の獲得に奔走している。

一方、琵琶湖の近くで生まれ育ったこともあり、地元滋賀での実践や貢献への思いも強い。官学連携での実用化や環境教育への応用を滋賀県に働きかけるほか、県内企業との共同研究、水産関係の団体との連携も探るなど、グローバルにもローカルにも多忙な日々を送っている。

07 | World, Unlimited

グローバルクライシスゲームで
育む交渉力

国際学部 グローバルスタディーズ学科

陳 慶昌 准教授

チェン チンチャン

グローバルクライシスゲームの様子



全てが英語で進行する模擬外交ゲーム

英語をなぜ学ぶのか。活きた言語を学ぶとするモチベーションは「様々な人々と意思疎通が叶うと爽快だ」という経験や、反対に「うまく伝わらずに歯がゆい、伝えたい」といった経験からも生まれるのではないか。

2016年から国際学部で始まった「龍谷サミット グローバルクライシスゲーム」は、英語による交渉力を育む。2回目となる2017年は11月に深草学舎で開催された。参加者は本学の学生や留学生や高校生、合わせて約50名。当日の傍聴者も含めると約100名ほどでの実施となった。

このゲームは、世界各地の教育機関で取り組まれている「模擬国連」という外交ゲームを本学流の規模にアレンジしたもの。「参加者は実在する国家チームに分かれ、さながら国連会議のように、ある国際的なテーマについて1日議論を繰り返す。チーム分けや議題は事前に伝えられ、各チームは当日までに、自国や周辺国の現実的な情勢の調査、議論展開する上での立ち位置や戦略、それぞれがめざすゴールなどを打ち合わせていく。そしてそれらの全ては英語で進行されます」と、これを企画した陳准教授。

2017年度の今回、テーマとされたのは「南シナ海問題」。参加者は開催日の1カ月前から日本、中国、ベトナムなど南シナ海周辺国やアメリカ、欧州連合などの国家・国際機関チームに分かれて準備に挑んだ。全てのチームは、1チーム日本人学生2名、留学生2名、高校生2名の計6名で構成。SNSでのやりとりやミーティングを重ねて戦略を練り、当日を迎えた。



合意に達することの難しさを体感

2年連続で参加した3年生の宮原さん。今回は中国チームとして参戦。

「初めての回は、交渉の主導権はほとんど留学生に。でも2回目の今回は全体的に日本人学生も積極的になっていたし、高校生も当日各チームのポジションペーパーの読み上げをやるなど発言の機会が増えました。私自身も、1回目は何が話されているかにもついていけず歯が立たなかった経験をして、英語力も知識も不足していると実感。リベンジの今回、語彙力が1年で増したかというところとそう変わらない気がするのですが、交

渉の場への慣れという意味ではかなり成長したのではないかと考えています」

南シナ海の問題で中国チームが黙っていると議論が成立しないという責任感もあった。例えば、中国は経済の話をしたい。しかし話は安全保障へ。あまり興味はないが、存在感を放つため、筋の通った話や斬新な提案でなくとも、とりあえず手を上げて何か発言しておこうと意識した。また、あらかじめ周辺国と打ち合わせておいて、話がまとまろうとしてきたところにアメリカチームが別の話題を持ち出して主導権を握ろうとするとそれを制したり、そんな戦略もうまくいった。いずれも英語力のみならず、最新情勢



日本、中国、アメリカ、EU、マレーシア、フィリピン、ベトナムの7カ国で話し合いをおこなう

や各国チームの性格の分析などがあっての動きと言える。

「ゲームのゴールはテーマに対してなんらかの合意に達することで、幸いにもこの2年は合意が叶いましたが、時にはなんの合意にも達しない場合もあるでしょう。しかしそれはそれで、国と国が合意に達するということがいかに難しいかが学べるわけです。英語は道具に過ぎない。これを使って何かを成し遂げるために英語を学んでいる。そのことに気づいてもらえればと」(陳准教授)

これまでは参加希望を募っての実施だったが、2018年度以降はこのゲームを4年生の授業のなかに取り入れる。いかに設定を

工夫して、モチベーションにばらつきある参加者全員を活かしていくか。また、NGOなどの国家以外のアクターを取り入れることも検討されており、まだまだ面白くなりそうなこの取り組み。これからの期待したい。



左：陳慶昌准教授

右：宮原拓司さん（大阪府立芦間高校出身）
国際学部 グローバルスタディーズ学科 3年生

08 | Event Ryukoku Museum

仏教の開祖ってどんな人？ 人間・シッダールタに迫る展覧会

春季特別展 『お釈迦さんワールド —ブッダになったひと—』

2018年4月21日(土)~6月17日(日)

休館日 = 月曜日(ただし4月30日は開館)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、京都新聞、
日本経済新聞社

今から約2500年前に、インドで悟りを開いたといわれる仏教の開祖ガウタマ・シッダールタ。仏教徒であっても、開祖の人となりについては、よく知らないという方が多いのではなかろうか。現在、私達が呼び親しんでいる「お釈迦さん」とは、一体どんな生涯を歩み、どんな人物だったのか。春季特別展『お釈迦

さんワールド —ブッダになったひと—』は、そんなシッダールタに焦点をあて、彼が実際に生きた時代や生涯を紹介する展覧会だ。展示は「ブッダ」「釈迦」「釈迦牟尼」「釈尊」など呼び方の違いの説明からスタート。漫画家・手塚治虫先生の『ブッダ』直筆原画もあわせて展示され、仏教に詳しくない人でも楽しめる内容となっている。

4章に分けて構成される展示の見どころをご紹介します。第1章はシッダールタが生きたとされる前5世紀前後の社会を、ユーラシア各地の出土品をもとに想像してみるセクションだ。「この時代は、ソクラテスや孔子が活躍



重要文化財「涅槃変相図」(部分) 鎌倉時代 広島・耕三寺蔵【展示期間 4/21~5/20】

した時代でもあります。世界規模で同時多発的に思想が発達した社会背景には何があったのか？ 龍谷ミュージアムでは珍しく考古学主体の展示を試みました」

次の第2章では、シッダールタが生まれてから入滅するまでを經典や仏伝図から紹介する。ここでは、釈迦の生涯がぐるりと浮き彫りにされたストゥーパ(仏塔)が登場。時計回りに鑑賞しながら、その人生をたどることができる。また第3章では、様々な仏教儀礼を通じて、開祖を追慕する仏教徒の思いを探る。第4章では、開祖の遺骨、つまり舍利に注目。各地の舍利信仰を紹介するほか、舍利容器な

ども展示する。「シッダールタの生涯は伝説化、超人化されており、実際にどんな人であったかはもはやわかりません。しかし、実在したことは事実です。様々な角度から“人間・シッダールタ”に迫る本展を通じて、ぜひその姿を想像してみてください」



龍谷ミュージアム岩井俊平准教授・学芸員

第15回 青春俳句大賞

「龍谷大学青春俳句大賞」は、世界最短の詩形文学である「俳句」を通じて、現代に生きる若者が感じたこと、思ったことを自由に表現し、社会に発表するための場を提供することを目的として2003年度から開催しており、今年度で15回目を迎えました。

今回は87,376句の応募があり、多くの力作が寄せられるなか、厳正なる選考をおこなった結果、見事に最優秀賞入賞を果たした作品をここに発表します。

中学生部門 最優秀賞

足裏にみづやはらかし立泳ぎ

東京都 笹田陽太さん 開成中学校3年生

評・茨木和生

水深のかなりある湖で立泳ぎをしている場面を私は思い遣っている。「みづやはらかし」と感じとり、それを文語で、ひら仮名で表現したところなど心憎い。

高校生部門 最優秀賞

みつあみのかたち残った髪洗ふ

広島県 赤木 佑実さん 広島県立広島高等学校1年生

評・寺井 谷子

三つ編みの髪を解く。しっかりと編んでいた髪はすぐには真つ直ぐにならない。その黒く艶やかな力は、青春そのものと言える。ミッシヨン系の女学校でもあろうか。「髪洗ふ」という季語が瑞々しく生きた。

短大・大学生部門
最優秀賞

跳箱の胴の空つぽ稲光

福岡県

森 優希乃さん

九州大学3年生

評・寺井 谷子
跳箱が積み上げられている。結構な高さになった。ふいにその跳箱の占める「空つぽ」の空間が認識される。それは次々に挑戦し、クリアしてきた高さが持つもの。「稲光」が見事に一句を仕上げた。

想いでの修学旅行部門
最優秀賞

高館で芭蕉を語る桜かな

東京都

富岡 枝理夏さん

お茶の水女子大学附属中学校3年生

評・茨木 和生

高館は源義経最期の場所と伝える所。芭蕉がここに立ったことを知っている作者は友と奥の細道の芭蕉の旅を語り合つたのだ。「桜かな」の季語が景をひろげている。

文学部部門
最優秀賞

海の青色鉛筆に無いと泣く

茨城県

遠藤 寛奈さん

常総学院高等学校1年生

評・安藤 徹

写生をしに水族館に来た子どもが泣いている。魚は海のなかでこそ生き生きと輝くの、既製の色鉛筆ではその青さを描けないというのだ。もどかしさと悲しさとに涙する子のまなざしは、水槽のかなたの大海の美しさをたしかに捉えている。

英語部門 最優秀賞

buying a ten-year diary Will I be here Or...not?

京都府 石澤 幸子さん 一般

評・ウルフ・ステイーブン

この句は若い学生よりも、私のような歳を重ねた者にうつつえるかもしれない。これからの10年という期限は保証されるものではなく、人生の時の移ろいの脆さを語る。10年を心に描く日記はギャンブルだなあ。

09 | People, Unlimited

龍谷人

プロ野球選手から 第二の人生へ 成功を導く生き方とは

飲食店経営者

吉川 勝成さん

人生で成功するのは難しい。しかし、なかには第一の人生で夢を叶え、第二の人生でも成功をつかむ人もいる。吉川勝成さんは、プロ野球選手を経て飲食店オーナーに転身。現在、第二の濃い人生を歩んでいる最中だ。

幼い頃から野球一筋だった吉川さん。大学時代も「絶対にプロになる」という強い思いのもと野球に取り組み、1999年ドラフト9位で近鉄バッファローズに入団。入団5年目には初勝利をあげ、リリーフ投手としても活躍したが故障が続き2008年に引退。桁外れの才能をもった選手達を相手に「気持ちでは誰にも負けるものか」と、自分に挑戦し続けたプロ生活だったと振り返る。

やりきった実感があったからこそ、吉川さんの次の行動は早く、引退の翌年には焼肉店『勝』を、続いて食パン専門店『成り松』を開店。順風満帆に見えるが、全く異なる世界で生きていくために必死で学び、特に接客やスタッフの育成など人に関わる部分ではずい

ぶん苦労したという。「ずっと持っていてよいプライドと、すぐにでも捨てるべきプライドがある。過去の栄光は自分を支えてくれるが、決して驕ってはいけない」と自分を戒めてきた。

今や『勝』は、常連から愛される店へと育ち、『成り松』は1日300本を売り上げる人気だが、「まだ成功したとは言えません」と堅実だ。元プロ野球選手の店とはあえて謳わず、自らは経営に徹する。目標は「質の良いものを提供して、地元で愛される店を続けること」

すっかり経営者となった今でも、時々思い出す風景があるという。「交流戦の甲子園球場で5万人の熱気の中かで投げた瞬間。あの快感は忘れることはできません。経営の道でも同じ感動を得るには選手時代同様、気持ちを含めて真剣勝負をするだけ」

プロ野球選手と経営者、世界は違っても、吉川さんの生きざまは変わらない。どんな場面でも、謙虚な姿勢で自分を鍛える者だけが、成功の切符をつかむことができるのだ。



よしかわ かつなり 1999年経営学部卒（天理高校出身）。同年近鉄バッファローズ入団、近鉄・オリックスでリリーフ投手として活躍。2008年に引退。2009年京セラドームに近い大阪市西区にて焼肉店『勝』をオープン。2014年食パン専門店『成り松』新町店、2015年に鞆公園店をオープンした。

09 | People, Unlimited

龍谷人

これまでの経験を活かし 国の福祉制度政策に携わる

厚生労働省 社会援護局 社会基盤課
福祉人材確保対策室
介護福祉専門官

伊藤 優子さん

1987年に介護福祉士が国家資格化され、1992年度に^{*}本学短期大学部に福祉専攻科が開設した。伊藤優子さんはその一期生。卒業後、老人ホームの介護職へと進んだが、当時はまだ大学で学んだことと現場の現状には大きく隔たりがあり、専門教育を受けた数少ない資格者として葛藤する日々が続いた。その後、社会福祉士受験資格を取得できる職場へ。そこでは後輩の育成や、実習学生を受け入れる立場に。その仕事ぶりが評価され、専門学校で教員にならないかと声がかかり教える側へと移る。教員の実績を重ねていくと、次は大学で働かないかと誘われた。神戸女子大学で1年、本学で6年教鞭をとった。本学にいる間には研究活動も進めた。そして2016年から厚生労働省で現在の介護福祉専門官として制度政策に携わることとなる。任期限定で現場経験豊富な人材を起用するこのポストは、介護人材養成をミッションとするチームにとって貴重な存在だ。

現場を離れて教員となるときに迷いもあったが、当時の施設の入所者のなかに大学の先生だった人がいて「あなたがここから居なくなるのは惜しいが、あなたのような介護福祉士を多く育てることが、これからの社会にとって必要なこと」と言われ決心する。教員になっても学生達を通して現場を知ることはできた。現在のポストの話があったときも「あなたの研究の成果をはやく行政に伝えてほしい」と背中を押してくれる人がいた。どんなステージに変わっても、自分の仕事は最終的には利用者に還元されている。そんな気持ちで仕事をしてきた。

「介護の仕事は、この四半世紀でお世話することから、利用者の命のあり方の支援や家族や社会を支える仕事へと進化してきました。これからも、複雑な日本の介護の理念を深く理解する人材を養成することが利用者のためになり、超高齢社会に入った日本の介護を学ぼうとする、各国の手本になるはずです」

(※2010年に廃止)



いとう ゆうこ 1993年 短期大学部福祉専攻科卒（東海大学付属仰星高校出身）。介護福祉士、社会福祉士。老人ホームでケアワーカー、生活相談員などの経験を経て、専門学校、神戸女子大学、龍谷大学短期大学部などで教鞭をとったのち2016年より現職。

09 | People, Unlimited

龍谷人

なりわいは大道芸

人の心をつかむ瞬間を重ねて

大道芸人 LEO

森本 一貴さん

高さ2mの一輪車の上でナイフをジャグリングするスリル満点のパフォーマンスに、道行く人々から歓声が上がります。人だかりの中心にいるのは大道芸人LEOこと森本一貴さん。

道を行く人の足を止め、芸に引き込み、その芸の対価として「投げ銭」を受け取るのが大道芸。その時のお客さんの空気に合わせ、組み立ても変えながら、どう盛り上げていくのかは自分の腕次第。そこに面白さがあると彼は言う。「大道芸」と、依頼主からギャラをもらって舞台も用意されておこなうイベントなどでの「パフォーマンス」。この両輪で生活している。

小学校低学年の頃に大道芸を観て憧れたのが始まり。それから自分で大道芸のあるところに足を運び、ビデオに撮っては練習を重ね、独学で技を増やした。16歳で初めての依頼があり、大学在学中にはストリートパフォーマンスのライセンスを取得した。大学は視野を広げるために理工学部へ入学。企業への就職も考え3年の夏にインターンシップに

参加したが、依頼の予定が入っていた芸のことが常に頭から離れなかった。それが大道芸人の道一筋と決めたきっかけ。大道芸なら身一つで世界に通用する可能性がある。AI時代になっても、生身のライブで勝負するエンターテイナーは消えない。だからこそやってみよう。今では「多様な業界に巣立っていった学生時代の友達と語り合えることが自分の宝です」

学生時代からすでに芸歴10年。マネーレスの時代で「投げ銭」の大道芸はいかに生き残るか。電子マネーなどの技術にもアンテナを広げ、新時代の投げ銭システムがつかれないか考えている。ニュースにも敏感でいたいし、一年に一度は海外へ行き、見聞を広め感性を磨くことも欠かさない。「いざとなつて、そんなこと知らなかった、となるのは怖いなど。だから学び続けて進歩していきたい」

今日も世界のどこかで、プロフェッショナルなLEOの芸が拍手喝采を浴びている。



もりもと かずき 2013年理工学部卒（神戸市立科学技術高校出身）。2008年から大道芸人 LEO として活動を開始。国内・海外の数々のフェスティバルに出場。高さ 2m の一輪車上で繰り広げるパフォーマンスと庄巻のジャグリングやバランス芸、ファイヤーパフォーマンスなどで盛り上げる。

最新情報



柔道部田中芽生選手が グランプリ・チュニスにて 銅メダルを獲得

1月19日～21日、チュニアのチュニスで、グランプリ・チュニスが開催され、柔道部の田中芽生選手(法学部3年・女子48kg級)が出場。見事に銅メダルを獲得した。

自身初の国際大会となり、2回戦ではリオオリンピックの銀メダリストを破る殊勲を挙げるなどし、3位決定戦では延長戦による接戦を制した。



第64回関西学生アイスホッケー リーグ戦(1部B)にて、アイスス ケート部が優勝、1部Aに昇格

第64回関西学生アイスホッケーリーグ戦(1-B戦)にて、アイスホッケー部が見事優勝を果たし、入替戦の結果、1部-Aに昇格した。

また、主将の山下陸選手(経済学部4年生)が1部-Bの最優秀選手賞を受賞した。チーム、個人が表彰され、チームにとってこの上ない喜びとなった。



関西大学バレーボール 秋季リーグにて、男女ともに優勝

2017年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦にて、男女バレーボール部がともに優勝を果たした。男子は上位リーグで数々の強豪校を破り、2014年度秋季リーグ以来、全勝での優勝となった。女子は上位リーグで最終戦、2セットを取られると優勝を逃す状況で、激闘の末30-28で第4セットを取り、セットカウント3-1で見事に優勝を果たした。



バトン・チアSPIRITSに所属する 2名が創部初の世界大会に出場 し入賞

8月4日～13日にクロアチア共和国ボレッチ市で開催された「2017年IBTFグランプリ大会」「第9回WBTFインターナショナルカップ」にて田畑貴大さん(社会学部4年)がアーティストィックトワール男子アダルト部門3位。嶋村愛香さん(社会学部1年)がスリーバトン女子シニア部門で第1位となった。



バドミントン部が第68回全日本 学生バドミントン選手権大会で 男女団体、女子シングルス、女子 ダブルスで準優勝

10月20日から一宮市総合体育館で開催された、第68回全日本学生バドミントン選手権大会において、男女団体及び、女子シングルスで嶺井優希さん(政策学部4年)、女子ダブルスで朝倉みなみさん(政策学部2年)、斉藤ひかりさん(経営学部2年)ペアが準優勝を果たした。



社会学部筒井ゼミの学生が 大津市議会の「女子学生議会」で 提案発表

10月25日、社会学部地域福祉学科の筒井ゼミの女子学生が、大津市議会の「女子学生議会」にて、各学生が調査した地域の問題について、提案発表をおこなった。この「女子学生議会」は、5月に大津市議会議長となられた仲野弘子議員が、「女子学生に議員として参画いただき、女子学生議会を開催したい」という想いのもと実現した。筒井ゼミから3年生10人・4年生12人の女子学生が発表をおこなった。



地域・コミュニティーを描く 学生が紡ぐ九つの物語 龍谷大学短編ドキュメンタリー

龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科の「コミュニティマネジメント実習(担当:松本章伸講師)」の受講生14名が、福島・徳島・滋賀などに赴き、取材・撮影を1年間かけておこなった。そしてドキュメンタリー映像作品を9本制作した。また、上映会「コミュニティのめ」を下京区の「京都シネマ」において、12月16日・17日に開催し、両日とも館内が満員になるほど盛況であった。



「第8回アーバンデザイン甲子園」で、阿部大輔ゼミナールが優秀賞と審査員特別賞をダブル受賞

12月10日、日本建築学会近畿支部都市計画部会主催「第8回アーバンデザイン甲子園」が開催された。そこで、政策学部阿部大輔ゼミナールの学生が前期と後期に取り組んだ都市設計の作品それぞれが、「審査員特別賞」と「優秀賞」（準優勝）を受賞した。阿部ゼミにとっては、2年連続でのダブル受賞の快挙となった。



学生達の誇り、知的障がい者オープンカレッジふれあい大学発表会

知的障がいのある人達と短期大学の学生が交流学習する取り組み「ふれあい大学」（文部科学省特色GP採択、糸賀一雄賞受賞）において、音楽と演劇の授業の発表会が、12月6日、深草学舎学生会館で開催された。ちがいを活かし合い心を通わせあった成果が上演され、会場は感動に包まれた。終演後、開講以来16年間代表を務めた加藤博史教授から、感謝の言葉が述べられた。



国連広報局アウトリーチ部部長マーヘル氏によるSDGsに関する講演会を開催

11月9日、マーヘル・ナセル氏（国連広報局アウトリーチ部部長）をお招きし、「持続可能な社会の形成に向けて若者に期待すること」をテーマにした講演会を開催した。本学国際学部グローバルスタディーズ学科の学生を中心に、他学部生や交換留学生も多く参加した。

SDGs(Sustainable Development Goals)=持続可能な開発目標



大宮図書館にナレッジcommonsを開設

2017年9月、大宮図書館内にナレッジcommonsが開設された。また、2018年3月竣工の大宮キャンパス東翼にはスチューデントcommonsも開設される。これらをあわせて「大宮commons」と総称し、これで深草・大宮・瀬田の3キャンパス全てに、ラーニングcommonsが整備されることになる。



法学部、創設50周年記念シンポジウムを開催

12月2日、龍谷大学法学部創設50周年記念シンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、『グローバル化時代における人権と民主主義』をテーマに、作家・高橋源一郎氏、ジャーナリスト・堤未果氏を招き、本学教員も含め五つの講演をおこなった。その後、講演者5名による全体討議がおこなわれ、会場から寄せられた質問に答えながら、熱く議論を交わした。



世界で・地域で・活躍する卒業生を迎えてキャリアシンポジウムを開催

11月9日、政策学部キャリアシンポジウムを開催。基調講演に、OGAWA COFFEE USA, INC社長兼CEOの宇田吉範氏をお迎えした。

「海外から見た日本人は大人しいという印象」、「そんな日本人が世界で活躍するためには、常にアンテナを高く張り、世界中で起こっている様々な事象に興味関心をもつことが必要だ」と語られた。



農学部×(株)ローソン 連携事業「新しいお米のカタチプロジェクト」始動

12月8日、龍谷大学農学部(滋賀県大津市)は、コンビニエンス業界大手の(株)ローソンの協力を得て、「新しいお米のカタチプロジェクト」がスタートした。米を使用した調理法のみならず、これまでにない米の加工法や海外への販売戦略、米農家の経営のあり方などの農業デザインに至るまで、課外活動として参加した13チーム45名の農学部生の斬新なアイデアに期待が高まる。



理工学部 近藤倫生教授らの研究論文が英国科学雑誌「Nature」に掲載

2018年2月、理工学部環境ソリューション工学科の近藤倫生教授が研究代表を務める、研究プロジェクト「事業名:戦略的創造研究推進事業 チーム型研究(CREST)」の論文が英国科学雑誌「Nature」に掲載された。

新しい数理的データ解析手法により、海に生息する魚種間にはたらく複雑な関係性を捉えることに成功したことが評価された。



理工学部 物質化学科 内田欣吾教授がノーベル化学賞受賞者主催の会議で講演

2016年のノーベル化学賞受賞者である、分子機械の研究を推進したオランダのベルナード フェリング教授らの地元フローニンゲン市。ここで11月19～22日、ノーベル賞を受賞した教授が主催する「Molecular Machines Nobel Prize Conference (分子機械ノーベル賞会議)」が開催された。この会議に、本学理工学部物質化学科内田欣吾教授が招待を受け、講演をおこなった。



文学部 岩尾一史准教授が一般財団法人橋本循記念会「蘆北賞」を受賞

11月30日、これまでの研究成果が認められ、岩尾一史准教授が一般財団法人橋本循記念会「蘆北賞」を受賞した。財団法人橋本循記念会は、優れた中国文学者であった橋本循立命館大学名誉教授のご遺志を受け継いで平成元年に発足。それ以来現在に至るまで主に「蘆北賞」授与による優れた学術研究の表彰などをおこなっている。



経済学部 辻田素子教授が日本ベンチャー学会「清成忠男賞 書籍部門」を受賞

経済学部現代経済学科の辻田素子教授の『コミュニティー・キャピタル -中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界-』西口敏宏・辻田素子著(有斐閣)が、日本ベンチャー学会の「2017年度 清成忠男賞 書籍部門」を受賞した。清成忠男賞は、ベンチャー企業及び企業家支援活動などに関する研究の奨励に資する優秀な論文及び著書を審査選定してその業績を顕彰するものである。



国際学部 松居竜五教授が「第15回角川財団学芸賞」を受賞

国際学部国際文化学科の松居竜五教授が『南方熊楠一複眼の学問構想』により、第15回角川財団学芸賞を受賞した。角川財団学芸賞は、アカデミズムの成果をひろく一般読書人・読書界につなげ、知の喜びを共有するとともに、研究諸分野の発展に寄与することを目的として平成15年に設立された賞である。



社会学部 笠井賢紀准教授が 「政策情報学会 学会賞(学会誌賞)」を受賞

12月2日、本学社会学部コミュニティマネジメント学科の笠井賢紀准教授が、政策情報学会の第13回研究大会において、学会誌賞(第2回)を受賞した。この賞は同学会の『政策情報学会誌』第10巻に掲載された論文、または研究ノートから選ばれる。笠井准教授の論文「住民自治組織の位置づけと機能—政策情報学の視点から—」が選定された。



経済学部長に 佐々木 淳(ささき じゅん)教授 を選出 (任期:2018.4.1~2020.3.31)

下関市立大学経済学部で6年間教鞭を執ったのち、1998年に本学経済学部に着任。2007年より教授。専門は近代日本経済史で、主として日本の在来的な織物業の発展を、アジアの工業化との関連で研究している。



法学部長に 落合 雄彦(おちあい たけひこ)教授 を選出 (任期:2018.4.1~2020.3.31)

日本学術振興会特別研究員、敬愛大学国際学部専任講師を経て、2002年に本学法学部に助教授として着任。主に国際関係コースを担当。2006年に教授に昇任。2009~2010年度は国際センター長、2011~2012年度は研究部長、2017年度は評議員。専門分野はアフリカ政治論、国際関係論。



国際学部長に 三谷 真澄(みたに まずみ)教授 を選出 (任期:2018.4.1~2020.3.31)

2005年に本学文学部助教授に着任し、翌年度国際文化学部に移籍、2012年度同学部教授。2014~2015年度に学部教務主任、2013年度、2016~2017年度に学部選出評議員。ドイツ・ベルリンにて長期国外研究員(2012年度)、短期国外研究員(2017年度)。現在、世界仏教文化研究センター西域総合研究班長、古典籍デジタルアーカイブ研究センター長。専門分野は仏教学、仏教文化学。

新刊紹介

* 値段は全て税込価格で表示
* Book Caféについては龍谷大学
学長室（広報）まで

01

共同研究
活動

龍谷大学アジア仏教文化研究センター
文化講演会シリーズ
『「世界」へのまなざし 最古の世界地図
から南方熊楠・大谷光瑞へ』



三谷 真澄(国際学部教授) 編著

アジア仏教文化研究センター・文
化講演会の内容を編集した講演
録。「混一疆理歴代国都之図」は
15世紀の人々にとっての「世界」

を表現したものであり、希代の博物学者・南方熊楠
と、大谷探検隊を派遣した仏教者・農学者・大谷光
瑞という、ともに若き日に欧州に遊んだ二人の人物
の世界認識について紹介したもの。

2017年12月刊 / 113頁 / 法蔵館 / 1404円

03

共同研究
活動

龍谷大学善本叢書第33巻
『中世国語資料集』
藤田 保幸(文学部教授) 編著



龍谷大学大宮図書館蔵の『職原
抄』ほか二本を解題を付して影
印・刊行したもので、いずれも有
職故実に関する中世語の語彙資
料として有用である。

2017年10月 / 330頁 / 思文閣出版 / 18792円

01

出版助成

『差別表現の法的規制—排除社会への
プレリュードとしてのヘイト・スピーチ—』

金 尚均(法学部教授) 著



本書は、ヘイトスピーチは、単に
不快という感情の問題や個人の
社会的評価の低下だけでなく、属
性を理由として同じ人間であるこ
との承認の否定であるとして、属
性を理由とする人間性の否定表
現による社会的排除と暴力の扇動に対して、人々の
基本的な社会的立場、社会的平等者として、そして
人権と憲法上の権利の担い手として承認のための基
盤としての人間の尊厳の保障を追求する。

2017年12月刊 / 259頁 / 法律文化社 / 5400円

02

共同研究
活動

龍谷大学国際社会文化研究所叢書第20巻
『日中韓メディアの衝突』

李 相哲(社会学部教授) 編著



副タイトルを「新聞・テレビ報道と
ネットがつなぐ三国関係」とつけて
いる。日中韓はメディアがつなぐこ
ともあれば、壊す場合もある。三国
の間には、歴史認識の問題、領土
問題など互いに譲歩しづらい問題

をも抱えているが、未来志向をもって
いくためにはメディアの役割が何より
大事という趣旨の下、書かれた書物
だ。日中韓の学者に加え現場を知る
記者・編集者が共同でまとめあげた
ところに価値がある。

2017年3月刊 / 280頁 / ミネルヴァ書房 / 5400円

04

共同研究
活動

龍谷大学社会科学研究所叢書114号
『21世紀ICT企業の経営戦略
変貌する世界の大企業体制』

夏目 啓二(龍谷大学名誉教授)・
林 尚毅(経営学部教授)・
楢塚 賢太郎(経営学部准教授)



本書は、グローバルなICT(=情
報通信技術)産業に焦点を当てて
世界の多国籍企業の経営戦略を
分析した。ICT産業は、世界の資
源・エネルギー、自動車産業と並ぶ
巨大産業であり、先進国と新興国の
多国籍企業間分業が広がる産業
である。12名の共同研究者が、ICT
産業を切り口に21世紀の世界の
多国籍企業の経営戦略を分析した。

2017年2月刊 / 273頁 / 文真堂 / 3024円

05

共同研究
活動



龍谷大学社会科学研究所叢書115号
『雇用の危機と労働・社会保障の展望』
矢野 昌浩(法学部元教授)・脇田 滋(法学部元
教授)・木下 秀雄(法学部教授)編著

「完全雇用」における雇用は生活を保障するものであり、その条件を満たさないのは「不完全就業」(underemployment)と呼ばれる。今日では悪貨が良貨を駆逐し、失業率の低下という意味しか与

えられなくなった労働権保障が人たるに値する生活を掘り崩す。それでも人間が尊厳をもって働き、生きていく希望を法学は実現しなければならない。そのための方策を検討したのが本書である。

2017年2月刊/324頁/日本評論社/6048円

06

共同研究
活動



龍谷大学社会科学研究所叢書117号
『宗教教諭の現在と未来
- 矯正・保護と宗教意識 -』

石塚 伸一(法学部教授)・
赤池 一将(法学部教授)編著

本書は、宗教意識と死刑制度に関する宗教史、教諭師及び刑事法学的視点からの論稿と、

本派前門主大谷光真氏と数々の賞を受けた『教諭師』(講談社、

2014年)の著者堀川恵子氏の対談で構成されている。第2部は、ジャーナリスト、弁護士及び日本と諸外国・米国・韓国・台湾・フランスの教諭に関する研究者の論稿で構成された内容となっている。

2017年3月刊/379頁/本願寺出版社/3240円

07

共同研究
活動



龍谷大学仏教文化研究叢書第35巻
シリーズ近代日本の仏教ジャーナリズム第1巻
『『反省会雑誌』とその周辺』

赤松 徹真(本願寺史料研究所所長・
龍谷大学前学長)編著

明治中期の大教校(本学の前身)では、普通教校の学生有志が結成した反省会が『反省会雑誌』を創刊したのをはじめ、『海外仏教事情』『伝道会雑誌』が相次いで

刊行された。本書はそれらの総目次及び『令知会雑誌』『国教』『九州仏教軍』の総目次、解説論文からなり、近代史・仏教史研究に貢献する内容である。

2018年2月刊/373頁/法藏館/6480円

出版情報

01:『国際法』

山田 卓平(法学部教授)共著

国際法を初めて勉強する人のための入門書。

2017年10月刊/218頁/有斐閣/1944円

02:『有機ELに関する発光効率向上・部材開発、新しい用途展開』

木村 睦(理工学部教授)共著

近年注目を集めている有機ELの専門書。本教員は、その駆動方式について各種の方式を比較しながら、系統的に解説している。

2018年1月刊/600頁/技術情報協会/86400円

03:『イタリアの歴史を知るための50章』

高橋 進(法学部教授)ほか編

古代から現代までのイタリアという地で織られた歴史を、45人の執筆者が50章と13のコラムで多様な視点から描き出している。

2017年12月刊/384頁/明石書店/2160円

04:『栄養科学ファウンデーションシリーズ4 生化学・基礎栄養学第2版』

石原 健吾(農学部准教授)編著

第15~31回管理栄養士国家試験の出題内容に基づき本文を構成。生化学と基礎栄養学に加えて、関連する解剖生理学分野も掲載。

2017年9月刊/192頁/朝倉書店/2916円

出版情報

05:『原因 一つの示唆』

今井 敦(経済学部教授) 翻訳

オーストリアの作家トーマス・ベルンハルトの自伝5部作からの翻訳。2016年に刊行された『ある子供』の続きにあたる。残り3作も今後刊行予定。

2017年12月刊/160頁/松籟社/1836円

06:『教職課程事務入門1～教職課程事務の全体像をつかむ!～』

小野 勝士(世界仏教文化研究センター事務職員)

教育職員免許法などの関係法令に関する知識が求められる教職課程事務の進め方についての解説書。2019年4月施行の法改正に対応した最新の解説書。2018年2月刊/160頁/ジダイ社/2484円

07:『明解企業史研究資料集 繊維産業編』全3巻

佐々木 淳(経済学部教授) 編

本資料集は、在来織物業に関する戦前期の希少な名鑑と旧外地での綿服地の需給(満州)や農村織物業(朝鮮)に関する報告書を復刻したものである。

2017年9月刊/2629頁/クロスカルチャー出版/140400円

08:『ミネルヴァ日本評伝選 足利義持一累葉の武將を継ぎ、一朝の重臣たり』

吉田 賢司(文学部准教授) 著

父祖の創業を固め、室町幕府を確立へと導いた、守成の4代将軍。その光と影。

2017年5月刊/362頁/ミネルヴァ書房/3456円

09:『現代中国のICT多国籍企業』

夏目 啓二(龍谷大学名誉教授)、陸 云江(元経営学部非常勤講師) 著

本書は、通信機器のファーウェイ社、パソコンのレノボ社、インターネット通販のアリババ社など、グローバル化する現代中国のICT多国籍企業を分析。

2017年2月刊/196頁/文真堂/3240円

龍谷 2018 No.85

Ryukoku Magazine 85 March 2018

広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。



広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>

下記URL及びQRコードから過去の
広報誌(デジタル版)がご覧いただけます



2017年No.83 2017年No.84

Digital Library
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>

広報誌『龍谷』85号(デジタル版)
プレゼント応募・読者アンケートフォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答頂いた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。



<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>

広報誌『龍谷』からプレゼント

龍谷ミュージアムペア招待券 …………… 10組20名様
龍谷大学オリジナル「あぶらとり紙」…………… 5名様(2つセット)



ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。

また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども)及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は右記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは5月31日(木)必着。

応募多数の場合は抽選で。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

前号(84号)の文中に以下の誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

- ・P46 右段 共同研究活動
01:『トリノの奇跡』
(追記)[龍谷大学社会科学研究所叢書113巻]
- ・P46 左段 共同研究活動
02:『地方分権と政策評価』
(追記)[龍谷大学社会科学研究所叢書112巻]
- ・P46 右段 共同研究活動
03:『安重根と東洋平和』
(追記)重本直利(経営学部教授)編著
[龍谷大学社会科学研究所叢書116巻]
- ・P47 右段 出版情報
07:『上海びより 訂正版』
(誤)訂正版 → (正)新訂版
- ・P48 左段 出版情報
13:『外国人労働者受け入れと日本語教育』
(誤)2018年8月刊行 → (正)2017年8月刊行

読者のひろば

仕事関係でも龍大卒の方にちよくちよく出会います。

それだけでぐっと親しみを覚えます。

卒業生 O

情報が沢山つまっていて読んでいて面白いです。残り1年の大学生活を楽しんでほしいと願います。

在学生保護者 O

がんばっている後輩の姿や尊敬出来る先輩にいつも刺激をもらっています。

卒業生 T

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報には、広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話：075 (645) 7882

FAX：075 (645) 8692

E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

【編集委員】

青戸 英夫、新井 潤、今川 嘉文、上手 礼子、
長上 深雪、小野 勝士、笠井 賢紀、梶脇 裕二、
河角 隆弘、木村 友貴、末原 達郎、
チャプル・ジュリアン、徳田 眞三、外村 佳伸、
長瀬 拳志、野呂 靖、原山 和弘、松本 賢、水杉 唯可、
山口 大、山口 道利、吉本 圭佑、若林 雅子(50音順)

【事務局】

増田 滋彦、田中 雅子、藤崎 智史

広報誌「龍谷」85号

2018年3月15日発行

編集：龍谷大学編集委員会

制作：龍谷大学学長室(広報)

発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075 (642) 1111 (代表)

龍谷大学ホームページURL

<http://www.ryukoku.ac.jp>



公式 facebook 「龍谷大学」

www.facebook.com/RyukokuUniversity/

You Tube



公式 You Tube 「龍谷大学」

www.youtube.com/user/RyukokuUniversity



公式 Instagram 「龍谷大学」

www.instagram.com/ryukokuuniversity/



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY